

第4回保倉川放水路環境調査検討委員会

前回(第3回)委員会で頂いたご意見とその対応

令和7年 9月16日

北陸地方整備局 高田河川国道事務所

1. 前回委員会で頂いたご意見の主な分類

- 第3回保倉川放水路環境調査検討委員会では、主に以下に示す分類についてご意見を頂いた。
- 本委員会で取り組む放水路整備に伴う環境への影響に関する調査と検討は、地元から挙げられている懸念事項に該当する項目に特に注力しながら、取り組んでいる。

1. 環境影響項目の現地調査状況

2. 地元懸念事項に関する現地調査状況

3. 地元懸念事項に関して頂いたご意見への対応

4. 今後の進め方

【平成19年度から、現在まで、ご意見を頂いている主な地元懸念事項】

- ①開削による海風の影響
- ②開削による飛来塩分の影響、放水路からの飛来塩分の発生
- ③開削による周辺地下水の低下
- ④海水の浸入による地下水への影響
- ⑤放水路内の水質(海水で満たされることによる不安)
- ⑥海域への影響(土砂濁り等)
- ⑦放水路への津波遡上

2. 前回委員会で頂いたご意見

1. 環境影響項目の現地調査状況に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
動植物に関する調査状況	<p>○ 動植物に関する調査はR3までで一度調査が終わっているが、数年経っており既に環境が変わっている可能性が高い。また、環境レポートと工事着手のタイミングに時間が空いてしまうと、その間に動植物環境が変わることも考えられる。</p>	<p>➤ 今後このような指摘に対してどう対応するか事務局で検討し、次の委員会で説明いただきたい。(委員長)</p> <p>➤ 動植物の生息生育状況は、経時的な環境変化により変わる可能性があるため、調査年や事業実施区域及びその周辺の環境変化については留意する必要があります。評価書作成にあたっては、現時点ではR3までの調査結果に基づきとりまとめる予定ですが、工事着手までに環境に大きな変化が認められる場合には、専門家の指導及び助言を得ながら、再調査の必要性について検討を行うことを考えています。なお、評価書において重要種の環境保全措置に伴う事後調査を行うこととした項目については、専門家の指導、助言を得ながら調査を実施する予定です。</p>

2. 前回委員会で頂いたご意見

2. 地元懸念事項に関する現地調査状況に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
データ・情報の取得、共有と活用	<p>○ 中部電力の火力発電所は、風や能登半島地震時の津波に関する情報・データを有していると思われる。国で自ら情報・データを取得することも大事であるが、中部電力の火力発電所が有している情報を共有いただきながら進めると良いと考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 関係機関等からはデータ提供のご協力をいただきながら、活用できるものは活用しているところです。 ➤ 津波のデータは国でも取得しており、そのデータに基づいてシミュレーションが進められている。(当日回答)
	<p>○ 放水路への津波遡上は、日々のデータを取りながら考えるのか、それとも10年に1回、30年に1回のことを考えながら対応を考えるのかが分からない。地下水や風についても毎年のデータに基づいて想定するのか、10年、20年に1回、悪化した状況に対して対応するのかが分からない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 津波への対応は、「保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会」において検討します。地下水は日常的な環境であることから、観測を継続的に行いながら、平均的な状況を対象に影響を想定するものとしています。 風は観測を継続的に行いデータを蓄積し、現地の風向・風速の発生頻度を考慮して影響を検討します。
	<p>○ 風は日々変化するので、できるだけ長期間の観測データを取得することが影響評価を行う上で重要である。保倉川放水路予定地周辺では、詳細かつ長期の観測データが得られている稀有な事例と言える。 今後はこれらのデータを活用して評価につなげて欲しい。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>

2. 前回委員会で頂いたご意見

2. 地元懸念事項に関する現地調査状況に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
データ・情報の取得、共有と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国環境影響検討の事例と比較しても観測箇所は充実している印象を受けた。観測地点を増やしているとのことだが、これまでの観測を継続し、データを時系列で評価することが重要である。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元懸念事項に対して網羅的な調査が行われている印象を持っている。現地調査により取得したデータに基づいて、環境の現状がどのような特性を有しているかについて分析し、把握することが重要である。地下水は時系列データの特徴が整理されているが、風や飛来塩分は、砂丘や樹林帯の分布、海からの距離等の条件に応じてどのように変化するのか、といった分析がこの先の影響予測に役立つと思われる。 	—

2. 前回委員会で頂いたご意見

2. 地元懸念事項に関する現地調査状況に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
特定外来種侵入の可能性とモニタリング	<p>○ 保倉川放水路を掘削し、放水路の周辺で緑化等を行った場合、希少種が失われることはこの地域ではないものの、一方で特定外来種等の害獣、望まれない動物が増えてしまうことも起こり得る。</p> <p>このような動物の生息状況調査については、地域の方々に目撃情報を寄せていただき、高田河川国道事務所のホームページで示すようなシステムがあると良い。また、双方向のシステムがあることで地域の方々が関心も高まると考える。</p> <p>放水路の完成後、堤防周辺が自然豊かな環境として整備されたり、マラソンコースなど市民に利用されたりするようなことにも発展すると良い。</p>	<p>➤ 重要な視点を2点、指摘していただいた。地域の社会資本整備に伴い特定外来種が入ってくる可能性があり、それをどうモニタリングするかという視点。地域の方々の協力を得て、モニタリング体制を構築し、情報提供のシステム等を活用するという視点。これらの視点は、津波の問題においても重要であり、まちづくり部会においても重要なテーマとして議論したい。(委員長)</p>

2. 前回委員会で頂いたご意見

3. 地元懸念事項に関して頂いたご意見への対応に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
開削による 瀧川の 分断の影 響	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放水路で分断される瀧川の下流部について、河川としての機能に支障が生じないか確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 瀧川の水源や水の動きは複雑であり、放水路により分断された場合にどのような環境となるかの詳細は不明であり、今後も引き続き調査を行う必要があります。

2. 前回委員会で頂いたご意見

3. 地元懸念事項に関して頂いたご意見への対応に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
開削による海風の影響	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでに風のシミュレーションが進められてきているが、あくまでも与えられた条件に対して結果が出るものであるため、どのような条件を想定して解析したのかについて説明していくことが重要である。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 風環境は変化するものであり、どのくらいの強さの風が、どのような頻度で吹くかは丁寧に説明する必要がある。全く強い風は吹かないということとは言えないので、それは理解していただく必要がある。風力階級の指標は感覚的に理解してもらうために有用である。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平均風速と最大風速は、観測期間が長ければ長いほどデータの信頼度が増すので、観測は継続して欲しい。 	—
開削による複合的な影響	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中部電力の送電線を設ける際、地元住民の方々は騒音・落雪氷により眠れない状況であったとのことであり、このようなことをアセスメントの対象とすることは困難であるが、このような意見も拾い上げる仕組みがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 放水路の開削に伴う風の影響により、他の構造物とのインタラクションが生じることはこれまで考えていなかった。重要な指摘である。(委員長) ➤ このような意見があることは事務局でも把握しており、これからも地元の皆様から頂いた意見を踏まえながら検討を進めます。(当日回答)

2. 前回委員会で頂いたご意見

3. 地元懸念事項に関して頂いたご意見への対応に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
潮止堰について	<p>○ 潮止堰は可動式であるか。平常時は堰が開いていて、津波のときは逆流しないように堰を設けるということか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 潮止堰は放水路への海水の浸入を防止するためのものであり、平常時は閉まっている。津波対策のためのものではない。 ➤ 潮止堰は、平常時に放水路に海水が入って来ないようにして欲しいとの地元の方々の意見を踏まえて検討したものです。 <p>津波への対応は、新たに設置する保倉川放水路治水対策・防災まちづくり検討部会において検討を行う予定です。(当日回答)</p>
	<p>○ 能登半島地震のときに関川を津波が遡上するニュースを見て、上越市民は震え上がった。このようなことが保倉川放水路で起こったら大変だと思ったが、潮止堰は津波対策のためのものではなく、津波対策は別途検討するということで理解した。</p>	<p style="text-align: center;">—</p>

2. 前回委員会で頂いたご意見

3. 地元懸念事項に関して頂いたご意見への対応に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
放水路内の環境について	<p>○ 潮止堰を造るとDOやクロロフィルaの問題があり、放水路内に生息する生物にどのような影響を与えるかが重要である。保倉川から魚介類やカニ等の生物が流入してくると想定されるが、どんな種類であるか、そのようなことを考えて検討しているのか。</p>	<p>➤ 現段階では放水路内の水質がどうなるかを予測したもので、それが生物にどのような影響を与えるかまでは検討されていない。 保倉川放水路を整備した場合に形成される水質状況と、保倉川や関川下流部における生物生息状況を参考として、生物相に対してどのような変化が起こり得るか検討ができるのではないか。(委員長)</p>
放水路内の環境について	<p>○ 保倉川放水路ができることによってどういった環境となるのか、まだ十分に地元の方々と共有できていないということが課題である。実際に生じ得る現象や影響を分かるように説明、共有することが重要である。 DO、COD、クロロフィルa等を水質指標とすることは良いが、その予測の数字に応じて生じ得る現象や影響が想像できるような説明が望ましい。その上で、地元の方々とどのような形が良いのか議論しながら進める、丁寧なプロセスが重要である。</p>	—
放水路内の環境について	<p>○ 潮止堰を設置した場合のDOの挙動が複雑な結果であると感じた。水の流れを分析し、メカニズムが分かるようにすると良い。</p>	—

2. 前回委員会で頂いたご意見

4. 今後の進め方に関するご意見

分類	主なご意見・要望、指摘事項	事務局の回答・考え方等
事業のスケジュール	○ 放水路の整備は長期間を要すると思われるが、どれくらいの期間を要するのか。	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業にどれくらいの期間がかかるかの明確なスケジュールは現時点では未定です。(当日回答) ➤ 気候が変化し、水災害が増えている。保倉川放水路の整備事業は議論を尽くしながらも迅速に取り掛かり、仕上げていくことも重要である。(委員長)
説明資料について	○ 水質の資料で、酸素がなくなった場合、アオコが発生した場合の臭いなどについて見える化がされている。今後も写真や絵などを用いて分かりやすく説明してもらえると良い。	—